

## 事業報告書 (令和2年度)

事業名 SDGsに取り組むESDによる地域教育力育成事業

団体名 岡山市京山地区ESD推進協議会 担当者名 柏崎 希

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

#### ■春の環境てんけん2020 身近な環境調査■

日時: 2020年5月17日(日) 9:30~12:30

場所: 京山地区内用水路、県総合グラウンド

参加対象者: 専門スタッフ(コロナ対応のため)

参加人数: 5名(学生ボランティアを含む)

内容等: 新型コロナウイルス禍への対応のため、一般参加はなしにして、最小限の専門スタッフのみで、継続的に行ってきた大気と水質の環境調査を行った。



京山ESD(岡山KEEP)「春の環境てんけん2020」記録用紙(2020/5/17)

水質等	時期	天候	気温 (℃)	水温 (℃)	流速 (cm/s)	pH	DO (mg/L)	溶存酸素量 (mg/L)	溶存酸素率 (%)	備考
瀬川川	11:00	晴れ	24	23	1.0	7.7	5	100	100	水深 1.5m
【調査ポイント】	10:15	晴れ	24	18	0.4	7.4	5	90	90	水深 1.5m
瀬川本流	11:20	晴れ	25	22	2	7.5	5	100	100	水深 2m
【調査ポイント】	11:25	晴れ	27	23	2.6	8.2	6	100	100	水深 1.5m
北瀬川										

大気調査	時期	天候	気温 (℃)	湿度 (%)	CO2 (ppm)	PM2.5 (μg/m <sup>3</sup> )	PM10 (μg/m <sup>3</sup> )	気象庁発表 (℃)	気象庁発表 (%)	気象庁発表 (ppm)
県総合グラウンド	11:30	晴れ	27	63	720	7	24	27	63	720
【調査ポイント】	10:15	晴れ	24	62	600	11	24	24	58	20
京山公園										
【調査ポイント】	14:40	晴れ	31	72	420	11	24	28	72	37

#### ■秋の環境てんけん2020 身近な環境調査■

日時: 2020年10月31日(土) 9:30~12:30

場所: 京山地区内用水路、県総合グラウンド

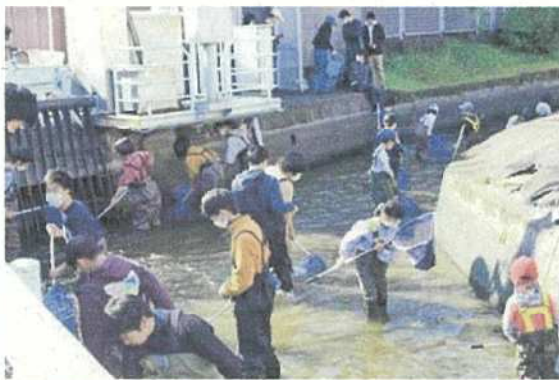
参加対象者: 小学生から社会人まで

参加人数: 70名(学生ボランティアを含む)

内容等: 持続性を損なっている地域課題を見つけ解決に取り組む市民を育てることを目指

(様式第8号)

し活動に取り組んだ。始めは2班に分かれ座主川、岡山県総合グラウンドで水辺の生き物調査・水質調査、大気の調査等を行った。その後合流し、観音寺用水「緑と水の道」で水辺の生き物調査と水質調査を実施し、生き物について解説してもらった。その後、公民館に戻り、振り返りを行った。







■京山地区ESD・SDGsフェスティバル（月間行事を含む）■

日時：2021年1月23日（土）～3月1日（月）

場所：京山公民館

参加対象者：子どもから大人まで

参加人数：60名（オンライン視聴を除く）

内容等：テーマを「今こそつながる地域の未来」とし、感染症対策のため、1月23日～3月1日を京山地区ESD・SDGsフェスティバル月間として、少人数分散型で実施した。

1月23日（土）は会場で参加する人数を制限し、その様子をYouTubeで限定ライブ配信したり、小・中・高・大の児童・生徒・学生や市民団体や企業などの発表を事前録画したVTRを流し、それに会場でのライブトークなどを入れた新たな形態で開催した。

小・中・高生の発表VTRでは、それぞれの学びや生徒会活動、文化祭等についての発表があり、地域の学校現場でどんな学びや活動が行われているかを、共有することができた。特に小・中学生の発表に対しては、岡山市教育委員会指導課より示唆に富んだコメントをいただくことができ、今後につながる有意義な時間となった。

地域の絆プロジェクトによる座談会は「コロナ禍の中で”つらさ””困難さ”を乗り越えるために：SDGs」をテーマとして開催し、地域の様々な立場の方からの意見発表や話し合いが行われた。

「京山ESD・SDGs対話」は、コロナ禍で出席者を大幅に絞ったかわりに、子どもたちや学生や地域の人たちから事前に意見や提言をもらい、それを集約したものを示して、対話の基礎情報とした。岡山市京山地区ESD・SDGs推進協議会会長の司会進行のもと、岡山市長、岡山市教育長、岡山大学学長、岡山商工会議所会頭、おかやま地域発展協議体SDGs研究会会長、岡山ESD推進協議会会長をはじめ、連合町内会長、社会人ユース、県議会議員、市議会議員など、いろいろな世代や立場の人達が一堂に会して、持続可能な地域づくりに向けた対話を行い、地域の課題と展望についての共通認識を深めることができた。

また、フェスティバル月間には、以下に記す団体のESD・SDGs活動紹介ポスター展示や、2月13日には長年継続してきた「環境てんけん」のまとめの会を行った。

(様式第8号)

【ポスター展示団体】伊島小学校、伊島学区コミュニティ協議会「緑と水の道」管理運営部会、岡山大学～自分故郷を韓国語で紹介、岡山ユネスコ協会、京山地区ESD環境プロジェクト、チューリップの会、津島生活学校、つしまみんな食堂、ノートルダム清心女子大学、報恩積善会 (50音順)



■ ESDまんが読本の改訂 (更新) ■

今年度はコロナ禍で現場活動ができなかった分、基礎学習に重点をおいた。このため、京山地区での ESD や SDGs の基礎学習教材である「読本1」を、最新の知見や動向も踏まえた改訂を行い、学習教材の充実を図った。

<p>2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ</p>
<p>ESD の視点としては、継続的に学社連携・全世代合同で地域の環境てんげんを行うことで、持続性を損なっている地域課題や変化に気づき、持続可能性向上や保全に主体的に取り組む市民を育てるということと、つながりを意識し、原体験やコミュニケーション能力（「生きる力」）などを育むという点を重視した。多世代間の学び合いの場を増やすとともに、特に ESD 健康ウォークラリーなど、高校生、大学生、社会人ユースといった次代を担う若者達が主体的に参画する場を強化し、地域教育と人材育成のさらなる充実に努めた。</p>
<p>3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）</p>
<p>本年度のコロナ禍は、社会の在り様を大きく変え、子どもから高齢者までみんなが協働して進めてきた京山地区の ESD・SDGs の取組の在り様も、社会の実状に応えたものへの進化を余儀なくされている。日常を変えることは、良きにしろ悪きにしろ大きな力を必要とすることで、京山地区においてもそのことが進化への大きな障壁となっていた。デジタル化で代表されるソサイエティ 5.0（超スマート社会）が、コロナ禍を受けて大きく前進し出していることは、多くの戸惑いと混乱、さらには格差をも引き起こしているが、その一方で、私たちの社会を持続可能なものへと変革していく大きな力、必然性を生み出している。今年度の京山地区 ESD・SDGs フェスティバルでも、長年の夢でもあった「京山スタジオ」の開設、YouTube ライブ配信など、踏み出したくても踏み出せなかったところへ踏み出すことができ、いろいろなトラブルなどはあったものの、地域のみんなの協働のもとでやり遂げられたことで、自信と勇気と覚悟と喜びをもたらした点は、今年度の一番の成果と言える。今年度は新型コロナウイルス禍のために、多くの制約を受けて、エコツアーなども中止せざるを得なくなったが、その代わりに、一度立ち止まってこれまでの取組を振り返り、今後に向けた取組の方向性を考えることができたことは、個人と社会の意識と行動を一步先に進めていくことへもつながった。コロナ禍で行った秋の環境てんげんや ESD 健康ウォークラリー、さらに京山地区 ESD・SDGs フェスティバルなどは、これまで以上にまわりへの配慮、思いやりの心を育み、自分たちだけでなく地域社会全体を視野に入れ、SDGs の「誰一人取り残さない」という理念をもった意識と行動が、特に参画した 10 代から 20 代の若者を中心に浸透していった点も大きな成果と言える。</p>
<p>4. 今後の課題と展望</p>
<p>今年度のコロナ禍で変わってきた新たな日常への動きは、コロナ禍が終息しても元に戻ることはなく、ソサイエティ 5.0 が目指す社会へと加速度的に進んでいくと思われるが、高齢者を中心にその急速な変化に順応しきれない人が多い。特に京山地区は、子どもも高齢者も在住外国人も多い地区なので、地域全体での調和を保ちながら、誰一人取り残さない社会を目指すためには、これまで以上に地域全体、すべての人に通じる ESD、社会教育の強化・充実が必要である。そのために、京山地区 ESD・SDGs 推進協議会の仕組みから取組までを見直し、しなやかにバージョンアップさせていきたい。この地区の強みでもある高校生と大学生と留学生の多さを活かしていけるように、高校や大学と本協議会との連携・協働をより一層強化・充実させていきたい。</p>